

## コードレビュープロセス改善によるコードレビューの費用対効果の向上

## Process improvement to cost-effective code review

三菱電機株式会社 細谷泰夫

[Hosotani.Yasuo@eb.MitsubishiElectric.co.jp](mailto:Hosotani.Yasuo@eb.MitsubishiElectric.co.jp)

静岡大学 森崎修司

[morisaki@inf.shizuoka.ac.jp](mailto:morisaki@inf.shizuoka.ac.jp)**発表要旨：**

従来、コードレビューはプロジェクト毎に限られた時間で実施していたが、検出容易な検出容易な指摘に偏って、重要な欠陥の見逃しが発生したり、指摘された改善事項が修正コストの大きさから修正されないケースがあり、コードレビューの投入コストに見合う効果が得られてなかった。

本論文で紹介する事例では、コードレビューの費用対効果を向上させるために「水平展開可能な指摘を早期に検出する」「スキルや知識によって分担を決めることで、欠陥の重複を減らせる」というコンセプトを立て、コードレビュー手法を以下の通りに変更した。

- (1)レビュー技法を実施時期によって使い分ける。
- (2)レビューで狙う欠陥を“誤り/誤りでない”、“粒度大/粒度小”の四象限に分類する。
- (3)四象限と関連付けたレビューシナリオを定義し、レビュー実施前に誰がどのシナリオでレビューするかを決める

本発表では、(1)～(3)のコードレビュー手法の内容および試行結果を紹介し、費用対効果の高いコードレビューの方法を提案する。

**キーワード：**

コードレビュー、レビュー観点、インスペクション

**想定している聴衆**

コードレビューを実施する開発者、プロセス改善担当者、品質保証担当者

**発表者の紹介（全角100文字）：**

主に衛星通信システムに関連するソフトウェア開発に従事。

アジャイルプロセス協議会テスト・レビューWGリーダー